七条中学校だより１１月７号

京都市立七条中学校
令和8年11月11日
発行：校長 林 秀雄

家庭学習と定期テストに向けて８

テスト前の1週間、「何をやるか」より「どうやるか」

定期テストまで、いよいよ1週間となりました。これまで学校だよりでは、家庭学習の方法や授業とのつながり、「分かった」と「できる」の違いなどについて考えてきました。この時期になると、「もっと勉強しなければ」「時間が足りない」と焦りを感じる人もいるかもしれません。しかし、テスト直前の1週間は、新しいことに手を広げるよりも、これまで学んできたことを確実な力に変えていくことが大切です。

そこで今回は、テスト前の1週間に意識してほしい具体的な行動を紹介します。

ワークや問題集は「2回目・3回目」に入る

テスト直前になっても、まだワークを終わらせることが目的になっていませんか。1回解いただけでは、本当にできるようになったとは言えません。間違えた問題や自信のない問題に印を付け、もう一度解き直してみましょう。特に「前回はできなかった問題ができるようになった」という経験は、大きな自信につながります。

「できる問題」より「できない問題」を大切にする

勉強していると、つい解ける問題ばかりをやりたくなります。しかし、点数を伸ばすためには、苦手な問題やミスしやすい問題と向き合うことが必要です。「どこで間違えたのか」「なぜ間違えたのか」「次はどうすれば正解できるのか」を確認することが、本当のテスト対策になります。

テスト当日の時間を意識して勉強する

25分や30分など時間を決めて問題を解いてみましょう。定期テストでは、「分かるのに時間が足りなかった」ということもあります。普段から時間を意識して問題を解くことで、本番でも落ち着いて取り組めるようになります。

「明日やる」を減らす

テスト前になると、「今日は疲れたから明日やろう」と考えてしまうことがあります。しかし、その「明日」が積み重なると、あっという間にテスト当日を迎えてしまいます。例えば、●英単語を10個覚える●漢字を1ページ練習する●数学を3問解く●理科や社会の用語を10分確認する　など、小さなことでも構いません。その日の課題は、その日のうちに取り組みましょう。

持ち物の確認をする

テスト勉強をしようと思ったのに、「教科書を学校に置いてきた」「ワークがロッカーに入ったままだった」という経験はありませんか。勉強は準備から始まっています。必要な教科書、ノート、ワーク、プリントは毎日確認し、家庭学習ができる状態をつくりましょう。特に今回のテストは実技教科もあります。5教科ばかりに目を向けるのではなく、早めに実技教科の学習も進めておくことが大切です。

睡眠時間を削らない

テスト前になると、夜遅くまで勉強したくなるものです。しかし、脳は睡眠中に記憶を整理すると言われています。「1時間長く勉強するために睡眠を削る」のではなく、「集中できる状態で学習する」ことを大切にしてください。

1日を振り返る

寝る前に1分で良いので、自分に問い掛けてみましょう。●今日できるようになったことは何か。●明日やるべきことは何か。●今、一番不安な教科は何か。これが見えている人は、翌日の学習もスムーズに進めることができます。

定期テストまであと1週間。ここからは、勉強時間の長さだけでなく、毎日の過ごし方が結果を左右します。テスト勉強は特別なことではありません。一つひとつの授業を大切にすること、家庭学習を継続すること、そして今日やるべきことを今日やり切ることです。残された時間は全員同じです。その時間をどう使うかで結果は変わります。1週間後、「やれることはやった」と言えるような毎日を積み重ねていきましょう。

定期テスト予想問題募集中 12日まで

「第3回 定期テスト予想問題募集」 を行っています。皆さんが授業を受けたり、教科書やノート、ワークを見直したりする中で、●テストに出そうだと思う問題●先生が大切だと繰り返し説明していた内容●みんなが間違えやすそうな問題●「なぜそうなるのか」を考えさせる問題●自分なら出題したいと思う問題　などを考え、応募してください。

裏へ



京都本大賞から広がる読書の世界

先日、「みんなで選ぶ 京都本大賞」の発表がありました。京都本大賞は、京都を舞台にした小説の中から、書店員さんや読者の投票によって選ばれる文学賞です。京都の街並みや歴史、文化、人々の暮らしが描かれた作品が集まるため、私たち京都で暮らす中学生にとっても親しみやすい賞といえるでしょう。

今年の最終ノミネート作品には、京都を舞台にした魅力的な作品が並びました。今年の大賞になったのは、

●『京都幽世（かくりよ）百貨店のデパ地下ガール』（卯月みか）です。 老舗百貨店で働く主人公が、不思議な「幽世百貨店」に迷い込み、妖怪や神様たちと出会うファンタジー作品です。現実の京都と幻想的な世界が交差する物語が魅力です。

また、過去の京都本大賞受賞作には、

●『スピノザの診察室』（夏川草介） 京都で働く医師を主人公に、人がよりよく生きるとはどういうことかを問う感動作。医療や人生について考えさせられる作品です。

●『猫を処方いたします。』（石田祥） 京都の路地裏にある不思議なクリニックを舞台にした心温まる物語。読書が苦手な人にも読みやすい作品です。　などがあります。

本を読むことは、ただ物語を楽しむだけではありません。登場人物の考え方や生き方に触れたり、自分が知らない世界を知ったりすることができます。一冊の本との出会いが、ものの見方や考え方を変えることもあります。読書の秋も深まってきました。ぜひこの機会に、京都本大賞の作品を手に取ってみてください。皆さんが毎日歩いている京都の街が、本の中ではどのように描かれているのかを味わいながら読むと、いつもとは違った発見があるかもしれません。読書を通して、新しい世界との出会いを楽しんでほしいと思います。

11月11日と「〇〇の日」

５月５日の端午の節句、７月７日の七夕、９月９日の重陽の節句など、日本には昔から季節の節目を大切にする文化があります。これまで学校だよりでも「節句」について紹介してきました。

さて、今日１１月１１日はどうでしょうか。実は１１月１１日は、残念ながら節句ではありません。しかし、この日は１年の中でも特別な日として知られています。なぜなら、「１」が４つ並ぶことから、とても多くの記念日が制定されている日だからです。皆さんも知っている「ポッキー＆プリッツの日」をはじめ、「チーズの日」「電池の日」「サッカーの日」「麺の日」など、数えてみると驚くほどたくさんの「〇〇の日」があります。中には「どうしてそれが１１月１１日なの？」と思うものもあり、調べてみるとなかなか面白い理由が隠されています。

ところで、なぜ人は記念日をつくるのでしょうか。それは、普段は見過ごしてしまうものに目を向けるきっかけをつくるためなのかもしれません。例えば、チーズの日なら食文化について考えるきっかけに、サッカーの日ならスポーツや健康について考えるきっかけになります。何気ない一日も、見方を変えれば新しい発見があるということです。

学校生活も同じです。毎日の授業や部活動、家庭学習は、特別な出来事ではないかもしれません。しかし、その一日一日の積み重ねが大切であるという事はこれまで何度も伝えてきました。

１１月１１日は「１」が４つ並ぶ日です。この「１」を見て、皆さんにはぜひ考えてみてほしいことがあります。「自分が今日積み重ねられる『１』は何だろう。」１ページの復習かもしれません。１問の問題に粘り強く取り組むことかもしれません。１冊の本を読むことかもしれません。友達への１回のあいさつや声かけかもしれません。

どんな大きな成果も、最初は小さな「１」から始まります。１年で最も多くの「〇〇の日」が集まる１１月１１日。たくさんの記念日に目を向けるだけでなく、自分自身の「今日の１」を見つける日にしてみてください。きっと、その小さな積み重ねが未来の自分に繋がっていくはずです。